

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100418		
法人名	株式会社 あしのメディカル		
事業所名	グループホーム和喜あいあい(ユニットA)		
所在地	釧路市星が浦大通3丁目9番29号		
自己評価作成日	平成29年2月15日	評価結果市町村受理日	平成29年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の想いを大切にしています。会話の中から、御本人の希望を聞き、御家族と協力し、出来る限り叶えられる様支援しています。
 体調不良時には協力病院が隣にある為、対応が早い事も利点としてあります。
 季節の行事を楽しむ機会を持ち、利用者様とご家族とが触れ合える場を提供できるよう努力しています。
 生活歴を大切にし、ペットとの同居も可能となっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0194100418-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成29年3月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成27年4月に開設した木造平屋建て2ユニットの事業所で、近くには大型店が立ち並び、利用者は毎日のように職員と一緒に買い物に出かけている。当事業所の敷地内に協力医療機関、訪問看護ステーションが有り連携が図られている。玄関、廊下、食堂、トイレも広く、ゆったりとした生活空間を確保している。左右にユニットがあり両ユニットの行き来を自由にしている。利用者は日々、「和(なごやか)」に「喜(よろこび)」を感じ、心身の機能訓練を行い、利用者同士も仲良く、明るく、にこやかに会話をしたり、趣味の編み物をしたり、俳句、短歌を常にメモリ、楽しんでいる。入所以前から飼っていたペットと一緒にホームで生活が出来、家庭的な雰囲気や安心と尊敬のある生活支援を行っている。職員は、全員開設当初からの入社で職員同士のコミュニケーションも良く、疑問に思うことなど相談しやすい環境にある。家族は職員の対応に感謝しており、満足度も高く、信頼関係に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	概ね達成できているとと思っている職員が多数。	「和喜あいあい5つの項目」を掲げ掲示している。職員は日々のケアで実践に繋げ取り組んでいる。	地域密着型事業所として、事業所独自の理念を職員と話し合いながら作り上げ、管理者と職員は理念を共有し、実践に繋げるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会行事には、職員、利用者の皆様とほぼ全て参加させて頂いている。そういった事からも顔なじみの関係が築け、毎日に理想の関係性が出来てきている。	町内会行事の資源回収、ゴミ拾い、敬老会、新年会、盆踊り準備の手伝いに積極的に参加して交流している。運営推進会議に町内会関係者が毎回参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状は、運営推進会議内での報告のみだが、以前には家族介護教室も依頼により開催、地域の皆様に認知症、グループホームへの理解を深める機会を作れたと思われる。機会があれば、また実施したい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行っている。会議内でのアドバイスを活かしサービス向上に向けた取組も常に実施。	2ヶ月に1回開催、町内会関係者、地域包括支援センター職員、家族、事業所関係者が参加して、利用者状況報告、活動内容報告(行事報告、行事予定)等を行い、意見・要望・アドバイスをサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、計画作成担当者のみで行っている。未熟ゆえ解らない事も多い為、都度相談させて頂いている。	管理者と介護計画作成者が市職員の担当者に相談したりアドバイスを受け、指導助言を得て、協力関係を築いている。行政からのメールで情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は、夜間帯のみ。身体拘束廃止についてのマニュアルを設定。各職員も理解を持ち取り組んでくれている。	身体拘束廃止マニュアルを設定している。外部研修会、職員勉強会で話し合い、全職員は正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が理解を持ち取り組んでいる。研修などの参加の機会が少ないので、今後の課題として取り組み更なる充実を図りたい。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では、職員個人で学んでもらう形となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、計画作成担当者のみで行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全てとは行かないまでも概ね達成できている。またそれに向かって努力をしている。	家族が訪問に来た時に日常生活を報告したり、意見、要望等を聞いた事は、連絡ノートに記録して、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員によって思いに違いはあるものの、出来る限り職員の意見、想いを汲める職場環境を目標とし、それに向け努力をしている。	管理者は毎月のカンファレンス会議で意見、提案を聞き、話し合っている。日常的に職員が意見、相談を言いやすい環境になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	概ね出来ていると思うが、時々思わしくない対応も見られる。職員間の意識向上を目指していきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などへの参加の機会は少なめ、今後の課題として設定して行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に一回は同地区の他のグループホーム様と共同で、運営推進会議を開催し交流や意見交換の機会としている。また、一緒に行事を企画しようと検討中。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	移り住む不安などを最小限に出来る様に対応している。ただ全てにはいえず、今後の課題と言える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当で御家族の不安、要望に出来る限り対応、安心してサービスを利用できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	概ね達成でている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	開設以来、職員の入れ替わりもほぼなく馴染みの顔ぶれの中、共に生活を営む良い関係と思われる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でも御家族様と相談する機会を作っていると職員は思わせて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り叶えてあげたいと言った思いが有るものの思いだけでは実現に至らないケースも多い。	馴染みの美容室が送迎して、利用者が出向いている。他の施設にいる友人に会いに行ったり、遠方から知人の訪問があったり、娘の家に泊まりに行ったり、年末に実家に帰ったり、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い距離、良い関係が利用者の皆様の中で続いていける様に、そっと支えてあげる環境が有る。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る限り対応させて頂いている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り対応しているが、まだまだ努力が必要。職員のみでは困難な事もあり、本人、御家族と共に一人一人の望む生活に近づけていきたい。	会話の中や表情で把握したり、家族から希望、意向を聞き、連絡ノートに明記して職員間で共有し、趣味事(編み物、俳句作り、ペット)を継続して楽しめる様に見守りながら支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	概ね達成できていると思われる。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り対応している。一人一人の個性を周知し、楽しめる事、活躍出来る事などなどへ活かせる様に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを大切にしながら、御家族様との面談の中で介護計画を作成。その後は実際に携わる機会の中で皆さんの意見、本人の思いを反映させ計画作成を行っている。	本人、家族から意見、要望を聞き、職員、管理者で話し合い介護計画作成者が本人、家族に説明し承認を得ている。毎月のカンファレンスと6ヶ月に1回のモニタリングで検討し見直している。状況に変化があれば、その都度現状に即した介護計画を作成する。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行っている。また職員間の気付きや工夫は職員間で共有できるように連絡ノートを使用。また月に一回のカンファレンス内で検討し介護計画に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に柔軟な対応が出来る様に各職員意識し取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の皆様と一緒に積極的に地域行事に参加する事を大切にしている。地域の皆様のご協力も有り、利用者の皆様方の楽しみ、豊かな暮らしの実現に少しずつではあるが、近づいている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、協力医療機関としているが、今までのかかりつけ医も大切にさせて頂き、本人、御家族の納得、安心のもと支援させて頂いている。	今までのかかりつけ医には家族が職員対応で受診している。訪問看護師により週一回、体調管理、相談、アドバイスを受け、協力医療機関とも適切な医療を受けられるように支援している。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時に相談、またそれからのアドバイスを受診時に報告、相談できる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関、相談室とは、そういった場合、常に連絡を取り合う様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた指針を作成している。訪問、協力医療機関、グループホーム、御家族様で支えて行ける様に取り組まさせて頂いている。	重度化や、終末期のケアについて、入所時に事業所の指針、方針を本人、家族に説明して承認を得ている。昨年は1名の看取りをして、協力医療機関や訪問看護師の協力体制が図られ、職員の心構え、対応などチームで支援することを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員とは言えないものの、勤務者の中には必ずそれに対応出来る職員を配置しており、また隣接して訪問、協力医療機関が有る為、体制は整っている。職員の知識、経験の向上の機会を作る事が課題。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の万全な基盤は出来ているが、実際を想定すると不安材料も有る。今後の課題として取り上げて行きたい。	年2回消防署の立会いで家族、町内会住民の参加協力を得て、夜間想定避難訓練や、地震、水害、津波の避難方法を消防職員のアドバイスを受け、話し合っている。対応マニュアルの作成や連絡網で協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	概ね出来ていると思うが、時々思わしくない対応も見られる。職員間の意識向上を目指していきたい。	一人ひとりの思いや行動、言動を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや、その人らしい人格を尊重して接遇に対応している。知り得た個人情報全職員は保持を厳守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の希望は何よりも大切にさせて頂きつつ、職員としても多くの活動の機会を作り利用者の皆様に活動の機会を提供、選択して頂ける様、支援させて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の皆様のその時々で、活動の機会を作ったり利用者様主体で生活が営める工夫を持ち支援させて頂いている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の皆様の自己決定を大切にしながら、支援が必要な部分に関してのみお手伝いさせて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り職員と利用者の皆様と一緒にゆっくり楽しく食事を作り、食べられる支援を行っている。また後片付けも利用者の皆様と行う事が習慣となっている。	食事の買い物、準備、味付け、後片付けを職員と一緒に楽しみながら行っている。お誕生日は、本人の好みを聞いたり、家族と一緒にしかけて楽しんでいる。季節食、行事食、外食、出前等取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は職員で把握できるように自然に確認させて頂いている。また、昼夜問わず支援出来る体制を職員間で築き上げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、就寝前には職員から促す支援を行う。昼食後に関しては、習慣となっていない利用者様もいる。ただ無理強いせず、その時々で対応させて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ユニットにおいて、現在オムツ使用者はいない。状況に応じ尿器やポータブルトイレを使用する等で排泄の自立、失敗を防げるように支援させて頂いている。	排泄パターンをチェック表で把握、タイミングをみて声かけ誘導を行い、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各職員理解を持って取り組んでくれている。食事、水分、運動を大切にしながら、どうしても便秘がちな方については、担当医、訪看と相談しながら下剤量を調整させて頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿った支援をさせて頂いている。希望によっては、夜間浴も実施。基本的には、午後からの入浴としているが、希望者には午前中からの支援も取り入れている。	概ね、週2、3回入浴している。希望の時間帯や入浴剤を好む人に合わせて、楽しめる様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯は、良眠できるように日中からの関わり方にも工夫を持っている。どうしても眠れない場合なども職員と穏やかに過ごす事が出来る様な体制を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を各職員が閲覧できる様にファイルしている。ただ全ての職員が理解を持っているとは言えない。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り対応している、毎日の買い物や個人の趣味、嗜好、望む生活についての支援を行わせて頂いている。ただ、全ての想いを汲み取ってあげられるまでには至っていない。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会を常に持ち続けられる様にホームでは、毎日、利用者の皆様と買物の機会を作っている。ただ、特定の利用者様に偏ってしまう事や一人ひとりの希望までには達していない。	職員と一緒に買い物に行ける人は楽しみにして出かけている。弁当持参で花見に出かけ、他の施設のイベントを訪問し、ドライブで、近隣の道の駅や鶴公園に出かけ、外食などの外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理に問題が無い方には、その様に支援させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも出来る様に支援させて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現状の空間が、利用者の皆様の馴染みとなっている。現状の状態において利用者の皆様方が不快感、混乱を生じる事はない。今後も居心地の良い空間作りに務めて行く。	玄関、廊下、食堂、トイレはゆったりと広く、ソファアでのんびり、楽しく会話をしながら、思い思いに、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各所にテーブル、ソファを設置している為、思い思いに過ごせる工夫を凝らしている。また利用者の皆様も自分たちの安心するスペースを感じてくれていると思われる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様には入居時に説明。使い慣れた物も有れば、新しく購入された家具も多い。ただ現状、利用者の皆様は自分達のお部屋に慣れ親しんでくれており、今後も利用者の皆様が安心して過ごせる空間作りに務めて行きたい。	居室は本人の好みでテーブル、テレビ、冷蔵庫、仏壇を置き、趣味の俳句を作ったり、編み物をしたり、ペット(ねこ)の食事、飲料水の世話や排泄処理の世話を一緒にベッドで寝ている。一人ひとりが其々居心地良く過ごせる様に支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆様の暮らしを見ているとそれが行えている様に感じられる。特別な事は行っていないが、自分で出来る事を作り出せる様に職員が支援させて頂いている。		